釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

◇上◇

「クラシック音楽の素晴らしさを」と木下さん

財団法人釧新教育芸術振興基金（平川剛喜理事長）は2004年度（第33回）釧新郷土芸術賞受賞者を決めた。今年の受賞者は繊細で優美なかな文字を使い、短歌や俳句を表現する書道の上林佳子氏、郷土でクラシック音楽を多くの人に伝えようと活躍しているピアノの木下太陽氏、特別賞に「我ら地球人」をテーマに80歳目前の今も世界を駆けめぐる写真家の三輪晃久氏の3人が受賞した。横顔を紹介する。

実力派、高い評価

「今、釧路ではクラシック音楽を聴く人が多くないが、少しでも多くの人にその素晴らしさを伝えたい」。

釧路市出身。父親は音楽を専門とする教員。母親も大学の音楽科卒という家庭環境もあり、5歳から母親の手ほどきで鍵盤をたたく。小学3年生から本格的にレッスンを始める。

湖陵高校を経て、京都市立芸術大学音楽部ピアノ専修卒業。同大学院音楽研究科器楽専攻修了。1992年、第21回釧路新人演奏会で教育長賞を受賞。大学時代を含めて9年間京都で音楽活動を続けた後に、97年に「地元釧路でクラシック音楽を広げたい」と帰釧。

地元でピアノリサイタルやデュオリサイタルを開催するほか、札幌市で札幌交響楽団とベートーベンのピアノ協奏曲を共演、大阪市でもオーケストラとベートーベンの「ピアノ、合唱、オーケストラのための幻想曲」を共演、若手の実力派として高い評価を受ける。

「自分は話しをするのが苦手なので、言葉にできないぶん、感じていること、思っていることを演奏で表現できたらと思っている」と物静かに話す。

自主企画の演奏会

帰釧後は演奏活動のほか道教大釧路校、釧路専門学校で非常勤講師として若者の指導にもあたる。99年には自身の主宰で「木下音楽工房」を立ち上げ、自主企画の演奏会を開催している。

「ソロだけじゃなく色んな楽器や演奏家とのジョイント、また教えることで、クラシックに興味を持ってくれる人を広げたい。一番の願いは〝音楽を楽しむ人〟を増やすこと」。

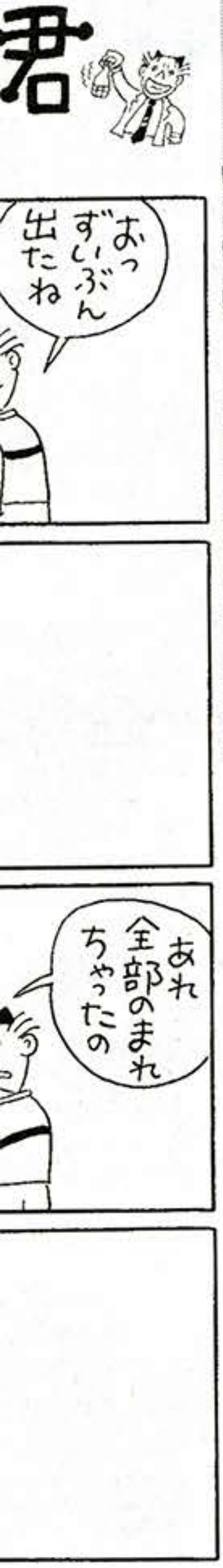
受賞については「まだまだ未熟な自分を応援して頂いたと受け止め、地道に演奏活動を続けることでそれに応えていきたい」と話す。

（佐竹直子）

クラシック音楽広めたい

若手の指導にも情熱燃やす

ピアノ

木下 太陽さん（34）

―釧路市富士見2―